



## あいさつ

全日本中学校・技術・家庭科研究会会長

三 浦 利 信

本教科が直面している課題として、学校数の減少や規模の縮小等の影響により、技術・家庭科の専任教員が不在の学校も増えてきています。このような状況にもかかわらず、第25回全国中学生創造ものづくり教育フェアが、昨年度に引き続き東京都立六郷工科高校を始めとする各会場で、競技ごとに参集型やリモート等を駆使して開催されますことを心より感謝申し上げます。

また、これまで各都道府県・地区フェアを経て、全国大会に出場される生徒の皆さんの努力に敬意を表しますと共に全国大会でのご活躍を期待しています。また、大会運営に当たられた関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究会の皆様をはじめ関係するすべての皆様のご尽力に感謝申し上げます。

令和6年12月25日に文部科学大臣から中央教育審議会に諮問された「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」では、子供たちが社会で活躍する2040年代を展望するとき、これまでのよい部分を継承し、課題を乗り越え、新たな時代にふさわしい在り方を構築する必要があるとされています。このような状況を踏まえると、本教科が担う役割は一層重要になると考えられ、教科の目標である「生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」ことの実現が、激しい変化を生き抜く子供たちの育成につながることを考えております。

そのような状況において、他者と協働的に学習に取り組み、自ら学習課題や学習活動を選択し、興味・関心を生かした自主的、自発的な学習は重要になります。中学生創造ものづくり教育フェアのねらいは、「知識や道具を駆使していろいろな条件のもとに自分なりの課題や目標を設定し、思考力・判断力・表現力を働かせて最適解を見つけ出そうと、失敗しても繰り返し粘り強く取り組み、多様な体験と切磋琢磨の機会を通して、進んで生活を工夫し創造する資質や能力をはぐくむこと」であり、学校の本質的な役割として求められていることが達成できる機会になると考えます。また本フェアをとおして、技術・家庭科の学習内容を広く世間に知っていただくとともに、全国の技術・家庭科の先生方の指導力向上の場となることを期待します。

おわりに、本フェアにご指導・ご支援をいただいております文部科学省並びに関係省官庁、会場提供いただいた東京都立六郷工科高校、学校法人香川栄養学園女子栄養大学、学校法人湘南工科大学、リモート会場の各中学校をはじめとする関係機関の皆様に、厚く御礼申し上げます。また、公私ともお忙しい中、生徒の競技の審査員をお引き受けいただいております皆様にも重ねて感謝申し上げます。また、各部門の企画・運営をご担当いただく運営委員の皆様に、心より感謝申し上げ、あいさつとさせていただきます。